

昨年11月10日に、今年度の市政レポーター「とまレポ」の皆さんと、市長が対談を行いました。日常生活の中で感じていることを通して、これからの苫小牧の情報発信についての意見をきかせていただきましたので、ご紹介します。

テーマ1 とまレポから見た市の情報発信について

市長

本日はお集まりいただきありがとうございます。ありがとうございます。今回は、「とまレポ」のテーマでもある、市の情報発信について、みなさんとお話をさせていただきます。まず最初に、「とまレポ」での活動や、普段の生活で感じていることなどをお聞かせください。



山田さん

「とまレポ」には、世代の違う方たちが集まっていますので、それ



ぞれの視点から意見が聞けて楽しいですし、とても勉強になります。広報とまこまいをテーマにしたワークショップのときは、字の大きさや紙面と情報量のバランスなど、細部まで神経を使って作られていると知り、感心しました。フェイスブックも、ターゲットを若い世代にしっかりと絞り、考えて作られているので、とても頑張っているという印象を受けました。

松本さん

苫小牧市は、広報媒体として、広報紙やホームページ、フェイスブックなど、



新しいものを非常に活発に取り入れています。これからは、最新情報をいかにタイムリーに届けるかが一番重要だと思います。先日の「とまレポ」で、デジタル情報をテーマにした回では、9月の大雨を例に、災害時の情報発信が話題になりました。

市政レポーター「とまレポ」って？

市では、市民の視点に立った意見を市政に反映させるため、一般公募の市政レポーター「とまレポ」の方から、ご意見やご提案をいただく参加体験型の取り組みを行っています。

●今年度の活動状況

「情報発信」をメインテーマとして、対談に参加いただいた方を含めた8人のレポーターが活動しています。広報とまこまいやホームページ、フェイスブックなどについて、市の担当課職員を交えてのワークショップ（体験型講座）形式で、それぞれの視点から意見交換を行っています。3月には、自身の感想や意見をまとめて、市長に報告します。

24年度は、「ゼロごみ大作戦～ステージ3～」、25年度は「未来へ！みなと大作戦～Gateway to the future～」などに参加し、ごみの分別やごみステーションのあり方、港のにぎわいの創出に向けた意見が出されました。



▲ (上) 5月に行われた委嘱式の様子



▶ (右) 6月に開催の第1回ワークショップの様子。広報とまこまいについて意見交換をしました